

科学技術・学術政策研究所 機関評価・中期計画検討委員会 第2回
議事概要

【日時】令和2年10月1日（木）10:00-12:00

【場所】オンライン会議

【出席者】

委員：西尾章治郎委員長、青島矢一委員、伊藤聡委員、上田修功委員、川合眞紀委員、
加藤百合子委員、小安重夫委員、城山英明委員、武田晴夫委員、辻村達哉委員、
藤沢久美委員、松田一敬委員

関係省庁：清浦隆参事官（総括担当）（内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当））
合田哲雄統括官（文部科学省科学技術・学術政策局）

事務局：菱山豊所長、岡谷重雄総務研究官、今井寛上席フェロー、赤池伸一上席フェロー、
伊地知寛博客員総括主任研究官、富澤宏之総括主任研究官、星野利彦総括上席研
究官、堀田継匡総括上席研究官、横尾淑子センター長、伊神正貫室長、郡司良男
課長、小野真沙美課長

【冒頭】菱山所長より開会挨拶

【議題1】政策当局等からのヒアリングについて

清浦参事官より資料1-1の説明、合田統括官より資料1-2の説明。主な質疑応答は以下のとおり。

（委員）

- ・日本版SBIR制度の見直しに期待しているが、しっかりワークさせるにはモニタリングによる改善サイクルが必要である。そのプロセスにおいて、NISTEPも協力できるのはいか。

（委員長）

- ・内閣府とNISTEPでどういう連携が取れるかも含めての検討が必要である。

【議題2】科学技術・学術政策研究所における政策研究の在り方（骨子案）について
事務局より資料2-1～資料2-3の説明。主な質疑応答は以下のとおり。

（委員）

- ・人文社会科学系に対して何ができるかということだが、まずはNISTEPのリソースを考えて、定点調査など既存調査研究に含めることから始めるのは良い。人文社会科学系の個々の分野の具体的な評価はNISTEPから外し、NISTEPは例えば、地域における生産性やイノ

- バージョン創出に関して、人社研究がどう関連したかを事例調査するなどしてはどうか。
- EBPM は、データに関する狭義の話と、より定性的な広義のものがあり、NISTEP には両者を柔軟にうまく担って欲しい。
 - 地方自治体や地域の科学技術関係機関との連携は重要である。個別に関係を結ぶことはリソースの観点から難しいと思うが、何かサポートするよううまい仕掛け作りをして欲しい。
 - 安全保障に関する問題について、現場の研究者など科学技術業界にどう影響を及ぼすのか、研究現場の声を取り入れることも必要。こういった政策研究は外務省や経済産業省などの関係機関が直接的に担うことになると思うが、文部科学省系の NISTEP が研究現場に近いという特性を活かして一定の役割を果たせるか検討してほしい。

(事務局)

- 人文社会科学系が、社会実装のプロセスに与える影響について分析できるか検討してみたい。
- 安全保障については、CSTI が中心となってシンクタンク機能の必要性を議論している。NISTEP としてできることがあれば協力していきたい。

(委員)

- 骨子案について、NISTEP への期待の現れか様々なことが盛り込まれている。しかし、NISTEP の現状を考えると、①リソースの拡張、②調査研究に優先順位を付ける、③ネットワークの拡大による外部リソースの活用等を行う必要がある。
- NISTEP は蓄積型のデータ基盤が重要な役割を担っており、このような性質は継続して欲しい。既存の調査を継続しつつ、可能な範囲で AI 分析など新しい要素を加えていくと良い。
- NISTEP は良い調査研究が多くあるが、それが社会に伝わっていないと感じるので、広報活動などアウトリーチにも力を入れていくと良い。
- 人材育成についても記載があるが、面白い取組を継続的に実施することで、自ずと良い人は集まってくるものだと思う。核となる継続的な目玉の調査を幾つか持つと良い。

(事務局)

- これまでの継続的な調査も目玉ではあるが、今回新しく始める AI を活用した調査研究も目玉と考えているおり、将来的に核となると思う。外部研究機関と共同研究を行うべく議論を重ねているところである。

(委員長)

- 従来からある継続的なものに関しても、持続可能性をしっかりと担保することが重要である。

(委員)

- 骨子案に重要な点は網羅されている。
- EBPM のプラットフォーム形成について、昨今データ駆動型の政策形成が重要になっている。データマネジメントポリシーの作成だけでなく、データ自体が資産として重要であるため、そのデータ資産を如何に公開・共有する基盤とするか検討すべき。それによって他機関と連携し、他機関のデータと融合して解析に繋げていくことも可能になろう。
- NISTEP の種々の調査に当てはまるものであるが、分野特性については注意が必要である。理学、工学、農学、生命科学といった分類がなされているが、理学の中にも宇宙物理や材料物理など様々な分野が含まれており、その各々で分野のカルチャーは異なるため、分野の違いを踏まえた調査についても検討してほしい。

(委員)

- 働き方改革について考えるうえで、研究の効率や生産性は大切である。今般のコロナ禍に対して、事前と事後の研究環境の変化分析をしてほしい。

(委員長)

- コロナ新時代における研究者の働き方や研究者が受けている影響について、分析対象とすることが重要と考える。

(委員)

- 研究者を目指す人材を元気づけることが重要であるが、現場の研究者と国民との距離感が大きいことが日本の問題であると感じる。国民に研究は余分なものという感覚を持たれていないかと心配である。研究は人類の可能性を広げるため、研究者は人類にとって重要な存在であることを NISTEP より伝えて欲しい。
- 小学生時点で男子は理系、女子は文系といった先入観が社会に蔓延っているのではないかと思う。こういった問題点を数値化して示して、政策を動かして欲しい。

(委員長)

- ある分野において女子学生が少ないことがイノベーション創出の隘路となっているなど、そのようなデータがあると非常に有効と考える。
- 研究をすることが人類にとってどれだけ重要なことであるかを大局的な見地でアウトリーチする活動も是非行って欲しい。

(委員)

- NISTEP には客観的なデータの収集を重要視して欲しい。その上で、例えば過去の未来予測の妥当性について検証して欲しい。
- コロナ禍の騒動から半年が経過したが、地理的制約がなくなったバリアフリーの新時代に変容しつつある。ヨーロッパの高等教育機関では学費が無料であったりとする中で、アジ

アの留学生が、奨学金だけで、これまでどおり日本に集まるかわからない。こういった社会の変革を念頭に、現時点での人材流動性に関するデータを意識的に収集してはどうか。

- 客観的なデータを出すことに注力して欲しいので、NISTEP が政策的なアウトプットを出すことはデータの客観性が失われるため賛同しない。

(事務局)

- バリアフリーの話は非常に重要であり、国際的な人材の流動性について客観的なデータを把握していきたい。そのためにも OECD や、アジアの国などとも協力関係を深めていきたい。

(委員)

- AI に関する取組強化について期待している。
- 人文社会科学系については、JST と NISTEP とで評価についても議論して欲しい。
- 人材育成については、キャリアパスの提示が大切である。各大学において IR 活動が盛んであるが、NISTEP のインターンシップ経験者がそのような場で活躍するなど、そういった事例をみせられると良い。

(委員長)

- NISTEP に対する期待の大きさを感じるが、特に NISTEP は人文社会科学系の評価についてどう考えているか。

(事務局)

- NISTEP には、人文社会科学系を評価していくだけのリソースがない。他方 JST は、人文社会科学系のプロジェクトを開始する予定と聞いており、連携が可能と考えている。NISTEP が出来ることとして、データ駆動型社会となる中での人文社会科学系の研究状況を調査することは可能と考えている。
- 評価については様々な価値判断なども入るため、NISTEP で全てを一度に行うと言うことはリソースの面から考えても難しい。他機関も含めて今すぐには難しいと思うので、文部科学省や関連独法、大学等と相談していくことになる。

(委員)

- NISTEP 自体が人文社会科学系の研究所であり、自身にも降りかかる問題のため、しっかり考えて欲しい。

(委員長)

- 人文社会科学系に関して、今後色々な観点から焦点が当たってくると思うが、一つの機関だけではなくて、いろいろな機関と連携して検討してほしい。

(委員)

- 委員長より会議冒頭で各委員に対するお尋ねがあった NISTEP の中期計画の KPI の要否について、私は不要と思う。設定するならこの中期計画の多数の項目についてそれぞれ定めることだと思うが、その活動自体大変なコストを要する。
- NISTEP の究極のミッションは、NISTEP 自身の研究活動の KPI をフォローすることより、年間 5 兆円 (5 年で 25 兆円) と言われた我が国の科学技術研究全体の予算、NISTEP の予算の 1 万倍にもなる投資が、どれだけのリターンとして日本の国力増強につながったかの KPI、ROI を示すことと思う。そのような活動に全力を投入して頂きたい。
- 他の研究所との連携を進められる話があったが、人文社会研究強化の中で、そのようなテーマも共同研究の候補としてはどうか。

(委員長)

- KPI の導入については、他の委員からも特に意見がなかったため、先の意見のとおり、KPI は特段設ける必要がないものとした。我々の委員会としてはそういう見解であるということ踏まえたうえで、NISTEP において検討してほしい。
- 前の委員の後半部分の意見も考慮しながら、AI 関連の研究所を有している理研との連携を進めることの検討を望む。

(委員)

- 国民とのコミュニケーションは重要である。国民の関心を得るためには、NISTEP が政策に役立っていくことが大切であると思う。政策研究として基礎研究も大切であるが、臨床の場でもあるため、研究力向上や SBIR をはじめ、政策により関わって欲しい。

(委員長)

- より社会に対して開かれた NISTEP になるために、社会との連携が重要だと思う。
- NISTEP にさまざまな観点から価値のあるデータが多く蓄積してきており、組織の位置づけとして可能であれば、政策提言を行うことも肝要と考える。

(委員)

- データの客観性の担保が重要であり、最も貴重なものであると思う。しかし、政策提言を行おうとすると偏りが生じてしまう。協力することはよいが、研究所としての自立性は確保すべきである。

(委員長)

- 中立であるべきという観点も含めて、どのようなスタンスに立つかは NISTEP で議論して欲しい。

(委員)

- ・NISTEP の役割について、ホームページで3項目掲げているが、外部からみると2番目の項目である「行政部局からの要請を踏まえ、機動的な調査研究を行う」という役割を強く感じる。1番目の「将来新たに発生する政策課題を予見し、自発的かつ掘り下げた調査研究を行う」という役割があまり見えていないという印象を受けている。
- ・政策提言ではなくとも、文部科学省や内閣府が既存政策の見直さざるを得ないようなデータを出していくと良い。そういう意味で、先程の提案にもあったように、外部と連携した形でのROIのようなデータは大切であると思う。

(委員長)

- ・コロナ禍における働き方改革など、今の課題に直結するデータをタイムリーに提言することで、政策議論を喚起させることが大切であると思う。

(委員)

- ・NEDO や RISTEX 等の他機関との連携について、NISTEP が少ない人員で研究するうえで、データや調査のオーバーラップなどの無駄をなくすことが重要である。連携に当たって、更にシンクロ率を高めることが大切である。
- ・大学発ベンチャーについて、海外からの留学生が起業する場合があるが、起業先で役員になると留学生ビザが失効したり、奨学金が取り消されたりと、優秀な学生に対して影響が生じている。両者のステータスが両立できるように制度改革をして欲しい。

【議題3】本中期計画期間中に見込まれる活動実績に係る機関評価（案）について事務局より資料3の説明。

【議題4】その他事務局より資料4の説明。

以上